

ネットワーク情報学部 学習成果を披露

2年次生30人

ネットワーク情報学部 2年次の「応用演習(社ラシック玩具)を利用したワークショップ」の受講者約30人は、授業で学んだワークシヨップに関する基本技術の学習を実践するために、1年次必修科目「情報と社会」の受講者約240人に対して、レゴ(レゴ)伝言ゲームを企画。制作

けながら、黙々とレゴを組み上げる1年次生だが、「他者とイメージを共有することの難しさ」が分かった。や、「2年次生が丁寧に授業を進行してくれていたので楽しくできた」などの意見が聞かれた。

グループEの「LEGOロワイヤル」



レゴを利用して1年次生にワークショップ



グループCの実習の様子

者が人に見られないようにレゴで「みなさんに楽しんでもらうことを第一に考えていたので、盛り上がり、ほかのレゴは子ども向けおもちゃとしてだけでなく、企業の研修などでも利用される優れた可視化ツール。各グループとも試行錯誤しながらアイデアを出し合い、それぞれに特徴のあるワークショップが制作された。

担当の山下清美ネットワーク情報学部教授は、「レゴは子ども向けおもちゃとしてだけでなく、企業の研修などでも利用される優れた可視化ツール。各グループとも試行錯誤しながらアイデアを出し合い、それぞれに特徴のあるワークショップが制作された。」と話した。

プロジェクト発表会2011 震災、環境問題の研究も

3年次生の必修科目「プロジェクト」の発表会が12月11日、生田キャンパスで開かれた。約1年かけて取り組んだテーマや研究の学習成果を学内の教員や学部の先輩・後輩、学外の一般の方々に披露した。

今年度は27プロジェクトが参加。「ドキュメンタリー映像の制作」



▲小林隆プロジェクトでは棚田に集うコミュニティーを提案



▲厳基珠プロジェクトは、外国気分を味わえる飲食店を紹介

自転車発電機を使って小学生にエネルギーの大切さ教える

綿貫研究室

ネットワーク情報学部 綿貫明研究室のメンバー8人が、12月3日、川崎市立南百合丘小学校の公開イベント「ハートフルステーション」に参加、自転車発電機を児童に運転させて環境問題を考えるきっかけを提起した。川崎市地球温暖化防止推進協議会と南百合丘小の要請を受けたもの。



自転車の後輪軸に風力用発電機を装備、こごごの音が聞こえる。再生可能エネルギーを日常生活に活用する目的で電気をつくる。自転車の後輪軸に風力用発電機を装備、こごごの音が聞こえる。再生可能エネルギーを日常生活に活用する目的で電気をつくる。

プロジェクト代表の松本直さん(4年次)ら卒業制作のメンバは、「自転車という身近なものから、楽しみながらエネルギーの大切さや環境問題を考えるきっかけになったと思う」と話す。

綿貫教授は「社会性は「個性の発見」という意味で、研究室の学生にとって成果を公開する大変な機会となった」と学生の活躍に目を細めた。

ネットワーキング情報学部生の学外展示会

コウサ展2012

▽日時 2月4日(土)、5日(日) 11時30分

▽会場 Bank ART Studio NY (横浜みなとみらい線「馬車道」駅下車徒歩4分)

※コウサ展 <http://www.ne.senshu-u.ac.jp/~kouasa> 2012

川崎市多摩区消防出初め式が1月8日、多摩区消防署員や消防団員ら約450人が参加、集まった約800人の市民の前ではしご乗りや、放水のほか、専修大学馬術部の小久保俊さん(経営1)とマスコット「センディ」らが先導を務めた徒歩・車両部隊の分列行進などが行われた。

自転車の後輪軸に風力用発電機を装備、こごごの音が聞こえる。再生可能エネルギーを日常生活に活用する目的で電気をつくる。

自転車の後輪軸に風力用発電機を装備、こごごの音が聞こえる。再生可能エネルギーを日常生活に活用する目的で電気をつくる。

プロジェクト代表の松本直さん(4年次)ら卒業制作のメンバは、「自転車という身近なものから、楽しみながらエネルギーの大切さや環境問題を考えるきっかけになったと思う」と話す。

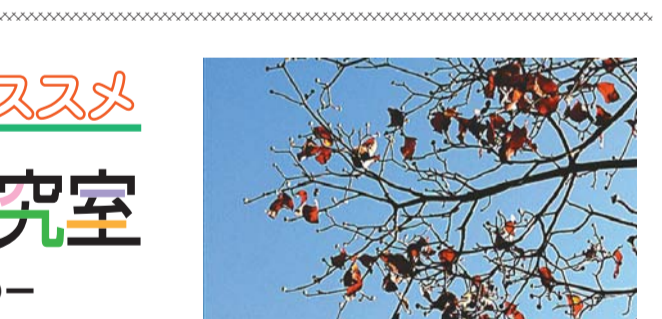
プロジェクト代表の松本直さん(4年次)ら卒業制作のメンバは、「自転車という身近なものから、楽しみながらエネルギーの大切さや環境問題を考えるきっかけになったと思う」と話す。

外国人から見た東日本大震災「テーマに討論」

「ジャーナリスト、フォトグラファー」ともにサテライトキャンパスで参加者はいずれも24人(計48人)で一般市民が若干参加。問題意識の高い意見や質問が盛んに交わされた。(土屋昌明)

川崎市多摩区消防出初め式に参加

川崎市多摩区消防出初め式が1月8日、多摩区消防署員や消防団員ら約450人が参加、集まった約800人の市民の前ではしご乗りや、放水のほか、専修大学馬術部の小久保俊さん(経営1)とマスコット「センディ」らが先導を務めた徒歩・車両部隊の分列行進などが行われた。



ドイツ語 寺尾 格 経済学部教授

外国語はスキル科目か?

「責任」は、名詞の response に可能な接尾辞 - bility をつけた言葉ですから、文字どおりに理解すれば、「返答可能性」ということになり。「返答できる」ということです。

ドイツ語では「責任」を Verantwortung と言います。真ん中の Antwort (アントヴォルト) が中心で「返答」の意味ですが、Ant とは「反対、対抗」、Wort (ヴォルト) は「単語、言葉 (word)」ですから、「言葉」に対して「言葉」を返す「対話」という実質が明瞭に見えてきます。「言葉」の「対話」能力を鍛える「知的な」作業が、大学生の「責任」です。ドイツ語を通すと、「腹を切る!」とか、あるいは一方的な命令が「責任」の意味ではないということが、よく見えてくるのではないのでしょうか。

(LL研究室長)